

六甲山上「まちっ子の森」と「アセビ伐採調査」

堂馬英二 (六甲山を活用する会)

1. ひとつは研究紀要『人と自然』に論文が掲載されます

発行予定のひとつは研究紀要『人と自然』に、当会が寄稿した「六甲山上における市民活動による アセビの伐採調査に関する報告」(論文/報告)が掲載されます。

研究紀要「人と自然」:www.hitohaku.jp/publication/r-bulletin.html

子どもたちの環境学習林づくりを目指して、繁茂するアセビのみを伐採して継続調査した結果、子どもが生き生き動き回ることができ、生きものや植物の多様性も観察できる“まちっ子の森”が実現しました。市民団体の地道な活動とそれを支援してくださった多くの関係者の尽力のおかげだと感謝しています。

14年前に近畿自然歩道の清掃に着手した時にはまったく考えられなかった、予想外の展開になりました。この調査活動の経緯や運営も含めて、多くの教訓を得ました。六甲山の森づくりをはじめ、同種の試みに取り組みされる人たちに、先駆事例としてご紹介できる記録ができました。

2. 「まちっ子の森」で六甲山の森づくりを紹介する

環境学習林づくりを目指して「アセビ伐採調査」を4年7ヶ月実施しました。その結果、1,700㎡の調査地域の樹種構成の特徴などが把握でき、山林景観も明るく変容して林内の照度が大きく変化しました。多様な樹種の実生の発生も確認できました。放置化されていた雑木林が「六甲山の昔の里山みたいだ」と言われる森に変化しています。

市民団体の試行錯誤の自主運営というのも特徴です。地域環境ネットワーク「六甲山環境整備協議会」の設立に関わったこと、多くの助成機関から活動資金を得られたこと、地権者の了解や監督官庁の「木竹伐採の許可」を取得したこと、調査目的と内容を段階的に進化させたことなどが挙げられます。

山麓の市民が六甲山上で活動する負担は大きいですが、年間200人ほどのボランティアが参加しています。市民が小さな活動を地道に積み重ねてきたことこそ成果といえます。誰でもが、六甲山の森づくりの担い手になれるという事例です。まちっ子の森を来訪する子どもや市民に、自然環境の保全・整備を担う取り組みを伝えていきたいと思えます。



4年目の実生新芽調査



小学生がアセビ伐採体験



凍った池の上で楽しむ幼児

3. 様々な活動を集約して定着を図る

六甲山上で14年にわたって様々な活動をしてきました。「アセビ伐採調査」は今後も、長年月の継続調査する必要があります。その半面、運営面を考えると、スタッフの高齢化や資金不足など活動を維持する難しさも増しています。これまでの活動項目を取捨選定して、少人数でも実施できる方向に転換することにしました。

当会の活動の基幹としていた「六甲山魅力再発見市民セミナー」を2017年度で終了することにしました。六甲山上で開催する様々な自然体験の催しを、毎月第3日曜日に「まちっ子の森デー」として集約することにしました。環境整備の活動は毎月2回程度に絞って、定期調査や環境のメンテナンスを中心に継続します。これらによって、当会の活動に関心を持たれる方に対して、活動の場所や舞台、実践に使える資料やデータを提供し、活動に参加されることを支援したいと考えています。